

日本山岳協会

■公認山岳指導員（アルパインクライミング）

養成目的 地域山岳会において、主に中高年登山者及び青少年少女に安全な登山が指導出来る指導者を養成する。

役割 区市町村の山岳団体を主な活動拠点とし、雪山や、岩登り目的を除くアウトドアライフの普及に努める。

受講条件 受講年度の4月1日現在満20歳以上で都道府県山岳連盟（協会）に所属し、同連盟（協会）が認める者。

カリキュラム 共通科目35h（共通Ⅰ）専門科目40h

受講料 共通科目 21,000円 専門科目 14,700円

登録料(4年間) 12,000円+α（各都道府県により1,000円から4,000円程度）（初回登録時のみプラス3,000円）

更新のための義務研修 資格登録有効期限4年間のうちに、最低1回は、日本山岳協会が定める研修会又講習会に参加すること。特に講習会は講師として参加すること。

担当委員会 日本山岳協会 指導委員会

区分		カリキュラム内容	時間数		
			集合	その他	計
1	基礎理論 (縦走を中心に)	① 登山医学（健康管理、救急法）、気象、地形	1h	1h	2h
		② 登山計画、生活技術	1h	2h	3h
		③ 遭難対策（危険の回避、事故発生時の対応などセルフレスキュー）	1h	0h	1h
		④ 自然保護（登山者としての自然保護）	1h	1h	2h
		⑤ 指導者制度、指導者の役割	1h	0h	1h
		⑥ 法律（リーダーの法的責任）	1h	0h	1h
		計	6h	4h	10h
2	実技・指導実習 (縦走を中心に)	① 無雪期の歩行技術（出発準備、歩き方の基本、夏の雪渓歩行）	3h	3h	6h
		② 無雪期の生活技術（幕営、炊事など）	3h	0h	3h
		③ 縦走路の岩場の通過などを中心とした岩登り技術	5h	2h	7h
		④ 無雪期の遭難対策（事故発生時の対策、通信・連絡方法などセルフレスキュー）	3h	1h	4h
		⑤ 積雪期の歩行技術（歩き方の基本）	3h	0h	3h
		⑥ 積雪期の生活技術（幕営、炊事など）	3h	0h	3h
		⑦ 氷雪技術（ルート選定など）	4h	0h	4h
		計	24h	6h	30h
			30h	10h	40h

■公認山岳指導員（スポーツクライミング）

養成目的 都道府県レベルにおいて、年齢・技術レベルに応じてクライミング教室や、学校登山部活動等で基礎的な実技指導にあたる指導者を養成する。

役割 都道府県レベルにおいて、スポーツクライミング・ボルダリングの技術の普及および初心者への指導に努める。国民体育大会の選手指導および監督となる。

受講条件 受講年度の4月1日現在満20歳以上で都道府県山岳連盟（協会）が認めるもので下記条件の全てを満たす者。

(1)5. 10以上をリードクライミングできると判断された者。

(2)人工壁に於いて、初心者への指導実績を有し、指導できると判断された者。

カリキュラム 共通科目35h（共通Ⅰ）専門科目40h

受講料 共通科目 21,000円 専門科目 14,700円

登録料(4年間) 12,000円+α（都道府県により1,000円から4,000円程度）（初回登録時のみプラス3,000円）

更新のための義務研修 資格登録有効期間4年間のうちに、最低1回は、日本山岳協会が定める研修会又講習会に参加すること。特に講習会は講師として参加すること。

担当委員会 日本山岳協会 指導委員会及び競技委員会

区分	カリキュラム内容	時間数			
		集合	その他	計	
1	基礎理論	① クライミングの基礎	2h	0h	2h
		② クライミングの技術・安全（人工壁）	2h	0h	2h
		③ 医学（ストレッチ・スポーツ外傷・ドーピング防止）	2h	0h	2h
		④ 法律（指導者の法的責任）	1h	0h	1h
		⑤ 確保	1h	0h	1h
		⑥ グレード（説明）	1h	0h	1h
		⑦ ルート、課題のセッティング	1h	0h	1h
		⑧ 競技	3h	0h	3h
	計	13h	0h	13h	
2	実技・指導実習	① クライミングの技術・安全（人工壁）	9h	6h	15h
		② 確保	3h	1h	4h
		③ グレード（グレーディング）	3h	0h	3h
		④ 競技	2h	3h	5h
	計	17h	10h	27h	
		30h	10h	40h	

■公認山岳上級指導員（アルパインクライミング）

養成目的 都道府県レベルにおいて、登山者全体に積雪期、無雪期を問わず安全な登山が指導出来る指導者を養成する。

役割 都道府県レベルでの登山全体の普及に努める本州3,000m級山岳地帯において積雪期登山のリーダー候補者に指導が出来ること。

受講条件 受講年度の4月1日現在満25歳以上で都道府県山岳連盟（協会）が認めるもので下記条件の全てを満たす者。

(1)本州なら3000m級山岳地帯において積雪期登山のリーダー候補者に指導ができると判断された者。

(2)4級以上の岩壁登攀のリーダー候補者に指導ができると判断された者。

カリキュラム 共通科目70h（共通Ⅰ＋Ⅱ）専門科目40h

受講料 共通科目 14,700円(共通Ⅰ免除者は8,400円) 専門科目 10,500円

登録料(4年間) 12,000円＋ α （各都道府県により¥1,000から¥4,000程度）(初回登録時のみプラス3,000円)

更新のための義務研修 資格登録有効期限4年間のうちに、最低1回は、日本山岳協会が定める研修会又講習会に参加すること。特に講習会は講師として参加すること。

担当委員会 日本山岳協会 指導委員会

区分	カリキュラム内容	時間数			
		集合	その他	計	
1	基礎理論 (登攀・氷雪を 中心に)	① 登山とスポーツクライミング	1h	0h	1h
		② 登山医学（健康管理、救急法）、気象、地形	1h	1h	2h
		③ 登山計画、生活技術	0h	2h	2h
		④ 沢登り	0h	1h	1h
		⑤ 登攀技術（自然の岩場、人工壁）	2h	0h	2h
		⑥ 積雪期の登山（歩行、山岳スキーを中心に）	1h	0h	1h
		⑦ 遭難対策（危険の回避、事故発生時の対応などセルフレスキュー）	1h	0h	1h
		⑧ 指導者制度、指導者の役割	1h	0h	1h
	計	7h	4h	11h	
2	実技・指導実習 (登攀・氷雪)	① 無雪期の歩行技術（歩行の基本、夏の雪渓歩行を含む）	0h	2h	2h
		② 積雪期の歩行技術（歩き方、ラッセル含む）	2h	2h	4h
		③ 無雪期の生活技術（不時露営含む）	2h	0h	2h
		④ 積雪期の生活技術（簡易露営含む）	2h	2h	4h
		⑤ 登攀技術1（自然岩場にて登攀・確保全般及び用具など）	2h	3h	5h
		⑥ 登攀技術2（人工壁にて登攀・確保全般及び用具など）	2h	0h	2h
		⑦ 氷雪技術（登攀・確保全般及び用具など）	2h	3h	5h
		⑧ 無雪期の遭難対策（連絡、捜索、搬送などセルフレスキュー）	0h	2h	2h
		⑨ 積雪期の遭難対策（連絡、捜索、搬送の基本などセルフレスキュー）	1h	2h	3h
	計	13h	16h	29h	
		20h	20h	40h	

■公認山岳上級指導員(スポーツクライミング)

養成目的 都道府県レベルにおいて、年齢・技術レベルに応じた実技指導にあたりと共にクライミング教室・競技会など企画・立案・運営に参画できる実行能力を有する指導者を養成する。

役割 都道府県レベルにおいて、スポーツクライミング・ボルダリングの技術向上・発展・普及・指導員の育成に努め、事業推進の中心的役割を果たす。国民体育大会の選手指導および監督となる。

受講条件 受講年度の4月1日現在満25歳以上で都道府県山岳連盟(協会)が認めるもので下記条件の全てを満たす者。

(1)5. 11以上をリードクライミングできると判断された者。

(2)自然壁に於いても実績を有し、指導員を指導できると判断された者。

カリキュラム 共通科目70h(共通I+II) 専門科目40h

受講料 共通科目 14,700円(共通I免除者は8,400円) 専門科目 10,500円

登録料(4年間) 12,000円+ α (都道府県により1,000円から4,000円程度)(初回登録時のみプラス3,000円)

更新のための義務研修 資格登録有効期間4年間のうちに、最低1回は、日本山岳協会が定める研修会又講習会に参加すること。特に講習会は講師として参加すること。

担当委員会 日本山岳協会 指導委員会及び競技委員会

区分	カリキュラム内容	時間数		
		集合	その他	計
1 基礎理論	① クライミングの技術・安全(人工壁)	1h	1h	2h
	② クライミングの技術・安全(自然壁・アプローチ)	1h	1h	2h
	③ 医学(ストレッチ・スポーツ外傷・ドーピング防止)	1h	1h	2h
	④ 法律(指導者の法的責任)	1h	1h	2h
	⑤ 確保	1h	0h	1h
	⑥ グレード(説明)	1h	0h	1h
	⑦ ルート、課題のセッティング	1h	0h	1h
	⑧ 競技	3h	0h	3h
	計	10h	4h	14h
2 実技・指導実習	① クライミングの技術・安全(人工壁)	2h	4h	6h
	② クライミングの技術・安全(自然壁・アプローチ)	1h	8h	9h
	③ 確保	2h	1h	3h
	④ グレード(グレーディング)	2h	1h	3h
	⑤ ルート、課題のセッティング	2h	1h	3h
	⑥ 競技	1h	1h	2h
	計	10h	16h	26h
		20h	20h	40h

■公認山岳コーチ（アルパインクライミング）

養成目的 全国レベルにおいて、登山者全体に厳冬期を含む積雪期、無雪期を問わず安全な登山が指導出来る指導者を育成する。

役割 全国レベルでの登山全体の普及に努め、日本山岳協会の講習会・研修会、文登研の研修会で講師が出来ること。本州3,000m級山岳地帯において積雪期登山のリーダー候補者に指導が出来ること。

受講条件 上級指導員資格取得後5年以上経過している者。または受講年度の4月1日現在満30歳以上で都道府県山岳連盟（協会）に所属し、同連盟が認める者で下記の実績のいずれかを満たす者。

(1)国内外を問わず、夏冬を問わず、著名ルートを第5等以内で登っていること。

(2)文部科学省登山研究所講師5年以上。

(3)7000m以上の高峰の登頂者、但しその時の役割は登攀隊長以上。

日本山岳協会が認めれば専門科目は1、2のレベルを乗り越えて受講も可能。

カリキュラム 共通科目152.5h（共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ）専門科目60h

受講料 共通科目 18,900円 専門科目 10,500円

登録料(4年間) 12,000円＋ α （各都道府県により1,000円から3,000円程度）(初回登録時のみプラス3,000円)

更新のための義務研修 資格登録有効期限4年間のうちに、最低1回は、日本山岳協会が定める研修会又講習会に参加すること。特に講習会は講師として参加すること。

担当委員会 日本山岳協会 指導委員会

区分	カリキュラム内容	時間数		
		集合	その他	計
1 基礎理論 (総合的に)	① 指導者と岳連、日山協の組織	2h	0h	2h
	② 登山医学（運動生理、ドーピングなど）	2h	0h	2h
	③ 積雪期の登山（積雪と雪崩を中心に）	0h	2h	2h
	④ 登攀技術（確保理論、グレードの理解を中心に）	0h	2h	2h
	⑤ 遭難対策（セルフレスキュー・チームレスキュー）	0h	3h	3h
	⑥ 指導法、指導者の心構え	2h	0h	2h
	⑦ 法律（山岳事故、リーダー責任など具体例の研究）	0h	2h	2h
	⑧ 山岳競争（大会の種類、運営など）	2h	0h	2h
	計	8h	9h	17h
2 実技・指導実習 (登攀・氷雪)	① 積雪期の歩行技術（ラッセル、ルート選定含む）	2h	0h	2h
	② 積雪期の生活技術（簡易露營、雪洞含む）	4h	0h	4h
	③ 登攀技術（自然の岩場にて登攀・確保全般及び用具など）	4h	4h	8h
	④ 氷雪技術（登攀・確保全般及び用具など）	4h	4h	8h
	⑤ 山岳スキー技術（ルート選定、歩行、滑降など総合的に）	5h	0h	5h
	⑥ 登攀時の遭難対策（連絡、捜索、搬送実習などセルフレスキュー）	5h	1h	6h
	⑦ 積雪期の遭難対策（連絡、捜索、搬送実習などセルフレスキュー）	8h	2h	10h
	計	32h	11h	43h
	40h	20h	60h	

■公認山岳コーチ（スポーツクライミング）

養成目的 都道府県レベルにおいて、競技者の育成・発掘にあたる指導者を養成する。

役割 広域エリアでのクライミング競技の強化にあたり、各都道府県山岳連盟（協会）における競技者育成システムの研究開発に参画する。

受講条件 受講年度の4月1日現在満25歳以上で、競技経験または競技指導経験を有し、日本山岳協会が認めた者。

カリキュラム 共通科目152.5h（共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ）専門科目60h

受講料 共通科目18,900円 専門科目 別途定める

登録料(4年間) 12,000円＋α（各都道府県により1,000円から3,000円程度）（初回登録時のみプラス3,000円）

更新のための義務研修 資格登録有効期限4年間のうちに、最低1回は、日本山岳協会が定める研修会又講習会に参加すること。特に講習会は講師として参加すること。

担当委員会 日本山岳協会 指導委員会

区分	カリキュラム内容	時間数			
		集合	その他	計	
1	基礎理論	① スポーツクライミングの基礎（歴史）	1h	0h	1h
		② クライミングの技術・安全（人工壁）	1h	1h	2h
		③ クライミングの技術・安全（自然壁）	1h	1h	2h
		④ 医学（スポーツ外傷、スポーツ損傷、ドーピング）	2h	0h	2h
		⑤ 法律（指導者の法的責任）	2h	0h	2h
		⑥ 確保技術	1h	0h	1h
		⑦ 指導法、指導者の心構え	1h	1h	2h
		⑧ グレード	1h	1h	2h
		⑨ セッティング	1h	1h	2h
		⑩ ジャッジ	1h	1h	2h
		⑪ 競技会場の設定・運営	1h	2h	3h
		⑫ 安全管理と対処法（施設・用具・人）	2h	2h	4h
		計	15h	10h	25h
2	実技・指導実習	① クライミングの技術・安全（人工壁）	2h	2h	4h
		② クライミングの技術・安全（自然壁）	3h	2h	5h
		③ ロープワークと用具装着・結束	1h	0h	1h
		④ 確保技術	1h	0h	1h
		⑤ セッティング	7h	2h	9h
		⑥ グレード	3h	1h	4h
		⑦ ジャッジ	5h	2h	7h
		⑧ 安全管理と対処法（施設・用具・人）	3h	1h	4h
		計	25h	10h	35h
	40h	20h	60h		

■公認山岳上級コーチ(アルパインクライミング)

養成目的 全国レベルにおいて、登山者全体に厳冬期を含む積雪期、無雪期を問わず安全な登山が指導出来る指導者を育成する。海外登山(概ね6,000m以上)においても安全指導が出来る指導者を養成する。

役割 海外を含め全国レベルでの登山全体の普及に努め、日本山岳協会の講習会・研修会、文登研の研修会で主任講師が出来ること。概ね6,000m以上の登山でもリーダーが出来ること。

受講条件 コーチを5年以上経験していること。都道府県山岳連盟(協会)に所属し、同連盟(協会)が認める者。

カリキュラム 共通科目192.5h(共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ＋Ⅳ) 専門科目40h

受講料 共通科目46,200円(共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ免除者は27,300円) 専門科目 16,800円

登録料(4年間) 12,000円＋ α (各都道府県により1,000円から3,000円程度)(初回登録時のみプラス3,000円)

更新のための義務研修 資格登録有効期限4年間のうちに、最低1回は、日本山岳協会が定める研修会又講習会に参加すること。特に講習会は講師として参加すること。

担当委員会 日本山岳協会 指導委員会

区分	カリキュラム内容	時間数		
		集合	その他	計
1 基礎理論 (今後の展望を踏まえて)	① 海外遠征登山(手続き、高山病、遭難の例など)	3h	0h	3h
	② 積雪期の登山(本州中部や、各山岳地域の特徴など)	2h	0h	2h
	③ 登攀技術(今後の日本及び世界の登攀の展望など)	0h	2h	2h
	④ 遭難対策(遭難事故を防ぐには)	0h	3h	3h
	⑤ 指導法(今後の指導者像、指導理論など)	0h	3h	3h
	計	5h	8h	13h
2 実技・指導実習 (新技術を中心に実践意見交換)	① 登攀技術(自然・人工の時々における話題で実践・実習・協議)	3h	2h	5h
	② 氷雪技術(時々における話題で実践・実習・協議)	2h	3h	5h
	③ 山岳スキー技術(総合技術)	3h	0h	3h
	④ 登攀時の遭難対策(チームレスキューを中心に協議)	3h	3h	6h
	⑤ 積雪期の遭難対策(チームレスキューを中心に協議)	4h	4h	8h
	計	15h	12h	27h
		20h	20h	40h

《専門科目における講習・試験の免除》

- 日本山岳協会が定める指導者講習・研修を受講した者。
受講した内容程度に応じ、日本山岳協会指導常任委員会が審査の上、免除科目を決定する。
- 日本山岳協会の以下の資格を保有する者は、以下の専門科目の講習・試験を免除する。
 - 日本山岳協会公認国民体育大会競技運営委員
指導員(スポーツクライミング) 基礎理論①、⑧
 - 日本山岳協会公認クライミング競技審判員
指導員(スポーツクライミング) 基礎理論①、②、⑧ 実技・指導実習⑥
 - 日本山岳協会公認クライミング競技ルートSetter
指導員(スポーツクライミング) 基礎理論①、②、⑥～⑧ すべての実技・指導実習(ただし①の3hを除く)
上級指導員(スポーツクライミング) 基礎理論①、②、⑥～⑧ 実技・指導実習②～⑥
- 日本山岳協会が主催する「登攀技術研修会上級指導員養成コース」を修了した者は、以下の専門科目の講習・試験を免除する。
上級指導員(アルパインクライミング) 基礎理論①～⑤、⑧ 実技・指導実習①、③、⑤、⑥、⑧
- 日本山岳協会が主催する「氷雪技術研修会上級指導員養成コース」を修了した者は、以下の専門科目の講習・試験を免除する。
上級指導員(アルパインクライミング) 基礎理論⑥、⑦ 実技・指導実習②、④、⑦、⑨